メールマガジン「すだち」のできるまで

（1）メールマガジン「すだち」が誕生するまで

多くの大学図書館は広報活動の一つとして、図書館報を発行しています。徳島大学附属図書館でも図書館報を発行しています。昭和 39 年、東京オリンピックの年に創刊し、40 年の歴史があります。執筆者への原稿依頼、ページ数・文字数・レイアウトの調整、締切日を考慮しての印刷依頼、校正、配布等の作業に多くの手間と時間をかけていました。

しかし、近年、IT・情報化の発達による伝達手段多様化の折り、かたくなに従来の印刷媒体による館報にこだわる必要はないのではないか、利用者にとってその時代に合わせた最良の形態を模索すべきでないかと当時の担当係長は、検討の必要性を感じていました。

平成 12 年度に、図書館内の図書館報編集委員会においてこの状況を考慮し、人員削減や経費削減等により体制的・経費的に厳しくなっていることも含めた検討を行い、印刷媒体発行を見直すべしとの意見をまとめ、上司に提案したところ、否となった経緯がありました。当時担当係長は、悔しくて眠れなかったそうです。時期尚早だったというところでしょうか。

以後、毎年検討の機会を窺っていたところ、平成 15 年度に次年度の図書館事業計画に「図書館の広報活動の調査・検討」の事項が盛り込まれることとなりました。機が熟したというのでしょうか。当時の部課長の指示で検討を進めることになりました。平成 16 年度の大学が法人化したのもそのきっかけといえるでしょう。図書館内で広報検討ワーキンググループを立ち上げ広報のあり方について検討しました。誤解のないように言っておきますが、電子版ありきで検討したのではありません。図書館の広報とはどうあるべきか？それまでの図書館報の問題点を洗い出しました。

- 速報性に欠ける。発行時には情報が古くなっている。
- 学内でも対象者が 1 万人ほどいるのに、現在の印刷部数は 2 千ほどであり、中途半端になっている。学生に届いていないのではないか？
- 経費・労力の割には読まれていない。
- 字数や経費の制限で有益な情報が載せられないことがある。
- 利用者の反応をつかみにくい。

このような問題点を検討した結果、徳島大学附属図書館の活動を広くお知らせして、図書館が今何をやっているのか、また、何をしようとしているのかについて、電子メールという便利な媒体を利用して積極的にお知らせしようということになりました。また、図書館ホームページとメールマガジンを使い分け、お互いのメリットを生かした広報を充実させることにより、経費節減と情報を効率よく伝達しようとすることにしました。

平成 16 年度第 3 回附属図書館運営委員会の承認後、平成 17 年 2 月より発行を開始しました。全国に先駆けてメールマガジンのみの図書館報となり徳島大学附属図書館が全国的に話題になり、現在も職員が図書館関連の会議や研修に出張した時には他大学の図書館の職員から経緯や内容のユニークさの秘訣について尋ねられることが多く、評判のメールマガジンとなっています。

（2）メルマガを出すのも、大変です。

某月下旬、メールマガジン「すだち」２Ｘ号発行。今月はなかなかスムーズに発行できたと満足して、ほっと一息つくのもつかの間、あっという間に月が明けてしまいます。
総務係長が次号の締切日をメールで連絡。記事を書く予定のある人は早めに出してくださいね、と呼びかけます。今月は１０日に締切です。
さて締切を過ぎた翌１１日、編集担当者の私の元に集まっていた原稿はなんと！３つ？　メルマガ「すだち」は豊富な情報量がウリじゃなかったんでしょうか。たった３つの記事では発行できません！

＜苦難の記事執筆＞

後ろのほうに掲載された「掲載記事一覧」をごらんになればわかると思いますが、「すだち」は毎号１０件前後の記事を載せています。『ちょうりゅう』の短いお知らせ記事から、連載のかなりの長文まで、内容は様々ですが、どれも結構苦労しながら図書館職員が書いているのです。
連載「あかりさんの卒論書かなくっちゃ」作成中の、あかりさんの「ノリ」が出せない！といった苦労や（当初担当していた職員が、産休に入ってしまったのです）、いつの間にか研究内容が変わっていた疑惑（!!）など、執筆担当ではない私は笑って聞いていましたが、担当者には笑い事ではなかったでしょう。
とにもかくにも、書き上がった記事は、担当課長に見てもらって第一の校正を受けます。そこでＯＫをもらって、ようやく記事があがってくるわけです。スローペースながら、締切の数日後にはだいたい予定の記事がすべて出揃います。

＜編集、そして発行へ＞

記事が集まってくれば、あとは簡単、決まったフォーマットに収まるように文章を組んでいくだけです。締切日前後から、徐々に作業をしています。
長い記事は読むのに不便、ということで、本文中にリンクを張って飛べるようにしたり、一度校正してあるはずなのに文章がおかしいところは、適宜修正したりしていきます。

ところで「すだち」では、いつも文字の多い誌面を少しでもにぎやかにしようと、できるだけ写真を挿入するようにしています。回線速度の遅い環境でも、スムーズに見られる程度のサイズを心がけているせいか、あるいは単なる腕の問題なのか、写りの悪い写真も多々ありますが……。また、厳しい課長に「センスがない！」と断言された写真も、メルマガにはそのまま使われていたりします。

記事を組み終わると、次長に最終チェックを受けます。そこでは「ああっ」と思うような指摘を受けることも。「これはいらない」と文章をばっさり削られたり、逆に「あれ！この話は記事にしてないの？」と根本的な増量を要求されたり。スムーズに行くときはスムーズなのに、引っかかると長いのがこの最終チェックです。最終チェックをクリアすれば、あとは決裁を回して発行するだけ！　と思ったら、なんとこの段階で誤字・脱字を発見したりしながら（たまにあるんです、それが）、発行準備は進みます。
附属図書館のホームページを管理している電子情報係の担当者に依頼して、写真などのファイルをサーバにアップしてもらってから、最後に自分から自分へテスト送信して誌面をチェック。それが済んだら、メルマガ送信用ソフト「同報@メール」でメール送信。「すだち」の送信数は１５００件以上。あまり多くのメールを一度に送るのはサーバに良くないそうで、分割送信の設定をしているせいか、全部送信し終わるまでには３０分くらいかかっています。

＜恐怖の訂正、焦る期限＞

メールマガジンを送るにあたって、いちばん気を付けるのは訂正を出さないこと、と言っても過言ではないかもしれません。「ああ、今月もちゃんとメルマガが出せた！」と思った途端にやってくる「訂正」の恐怖。間違いに気づくなら送信する前か、ずっと後にしてよ！と思ってしまいますが……後はいけませんね。ちなみに、これまでに２回、「すだち」は訂正版を発行しています。間違った情報を流してはいけない、というのは当たり前のことですが、慌てて訂正版を作成して送信するのはヒヤヒヤもので、心臓にもよくありません。
なかなか記事が集まらない、というとのんびりしているようですが、決して期限に追われていないわけではないのです。１つは「毎月発行」という目標。あんまり遅れて翌月にずれ込むのだけは、避けたいところです。もう１つは「２３日の講習会の告知記事がある」というような状態。なんとしてでも２２日以前に出さないと間に合いません！

これからも、新鮮な図書館情報を新鮮なうちにお届けできるように、メールマガジン「すだち」発行への戦いは続きます。